

日本産ヒメドロムシ科の目録と分類学的な問題点

上手雄貴¹⁾・中島 淳²⁾・林 成多³⁾・吉富博之⁴⁾

¹⁾ 〒 467-8615 名古屋市瑞穂区萩山町 1-11 名古屋市衛生研究所

²⁾ 〒 818-0135 福岡県太宰府市向佐野 39 福岡県保健環境研究所

³⁾ 〒 691-0076 島根県出雲市園町 1664-2 ホシザキグリーン財団

⁴⁾ 〒 790-8566 松山市樽味 3-5-7 愛媛大学農学部昆虫学研究室

Check List of the Japanese Elmidae, with Taxonomic Notes

Yuuki KAMITE, Jun NAKAJIMA, Masakazu HAYASHI and Hiroyuki YOSHITOMI

はじめに

日本産ヒメドロムシ科については、1950年代から60年代にかけて野村鎮博士や佐藤正孝博士などにより精力的に研究が行われてきた。1970年代以降、しばらくは新たな種の発表がなされなまま経過したが、1990年代後半から再び分類学的な研究が進み出し、現在に至るまでに新しい知見もかなり蓄積された。日本産ヒメドロムシ科のチェックリストとしては Satô (1977) や環境庁編 (1995) があり、これらにおいて 15 属 44 種が記録されている。また、佐藤 (1985) は「原色日本甲虫図鑑 II」において 41 種の解説を行なった。しかし、その後の分類体系の大きな変化を反映した目録はなく、日本産ヒメドロムシ科の全容を理解しにくい状況が続いていた。

そこで本報告において最新の日本産チェックリストを取り纏め、分布に関する情報や幼虫の記載がある種に関しては、その出典を示した。また、和名の無い種については和名の新称を与えた。分類体系については、従来のヒメドロムシ亜科とハバビドロムシ亜科の 2 亜科としたが (例えば、佐藤・吉富, 2005 ; Kodada *et al.*, 2016), 分子系統においてはこの体系が支持されないことが知られている (Kodada *et al.*, 2016; Kundrata *et al.*, 2017)。また、最新のワールドカタログ (Jäch *et al.*, 2016) でも亜科の扱いは保留されている。今後の研究で大きな変更が行われる可能性もあるので、この点については注意が必要である。

分布に関しては、北海道、本州、四国、九州、礼文 (礼文島)、佐渡 (佐渡島: 中島, 2018)、伊豆 (伊豆諸島: 吉富, 2014)、淡路 (淡路島: 富永, 2010)、隠岐 (隠岐諸島: 林・門脇, 2016)、対馬、五島 (五島列島: 司村, 2015)、大隅 (大隅諸島)、トカラ (トカラ列島)、奄美 (奄美群島)、沖縄 (沖縄諸島)、八重山 (八重山諸島) を区別し、その他の島嶼部に関しては省略した。ただし、固有種に

ついては島名を明記した。国外分布については「;」の後に記述した。

チェックリスト

日本に産するヒメドロムシ科の既知種は 17 属 57 種であり、このうちの 52 種は日本列島の固有種とされている。また、この他に未記載種も存在する。

ヒメドロムシ科 Elmidae Curtis, 1830

ハバビドロムシ亜科 Larainae LeConte, 1861

ハバビドロムシ属 *Dryopomorphus* Hinton, 1936

Yoshitomi & Satô (2005) により 4 種がまとめられており、本論文にヤクハバビドロムシを除く 3 種の幼虫も記載されている。その後、ヤクハバビドロムシの幼虫も Hayashi (2009) によって記載された。さらに、ハバビドロムシおよびヒメハバビドロムシの幼虫については、林 (2016) においても記載されている。Hayashi *et al.* (2013) や Kundrata *et al.* (2017) による分子系統解析の結果は、ハバビドロムシ属がツヤドロムシ属を含む Macronychini 族に近縁なことを示しており、Larainae に所属すること自体が妥当でない可能性が高い。

1. ハバビドロムシ *Dryopomorphus extraneus* Hinton, 1936
分布: 本州・四国・九州。
2. ヒメハバビドロムシ *Dryopomorphus nakanei* Nomura, 1958
分布: 本州・四国。
3. アマミハバビドロムシ *Dryopomorphus amami* Yoshitomi & M. Satô, 2005
分布: 奄美大島。
4. ヤクハバビドロムシ *Dryopomorphus yaku* Yoshitomi & M. Satô, 2005
分布: 大隅。

ヒメドロムシ亜科 *Elminae* Curtis, 1830アシナガミゾドロムシ属 *Stenelmis* Dufour, 1835

これまでに7種が記録されている。クメジマアシナガミゾドロムシを除いた6種については、幼虫も記載されている (Hayashi *et al.*, 2016)。アシナガミゾドロムシ属とミゾドロムシ属は上翅間室の形状で区別され定義されているが、少なくとも日本産の種をこの分類に当てはめることは、分子系統や幼虫形態から支持されていない (Hayashi *et al.*, 2013, 2016)。

5. ヤエヤマアシナガミゾドロムシ *Stenelmis ishiharai* M. Satô, 1965
分布：八重山。
6. アカハラアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hisamatsui* M. Satô, 1960
分布：奄美・沖縄；グアム。
7. ヨナグニアシナガドロムシ *Stenelmis aritai* M. Satô, 1965
分布：八重山。
8. クメジマアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hikidai* Kamite & Nakajima, 2017
分布：久米島。
9. イブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura, 1958
分布：本州・四国・九州・淡路・対馬；韓国，北朝鮮。
10. アシナガミゾドロムシ *Stenelmis vulgaris* Nomura, 1958
分布：本州・四国・九州；韓国，北朝鮮，中国。
従来，別種と考えられていたミヤモトアシナガミゾドロムシ *S. miyamotoi* Nomura & Nakane は，Hayashi & Yoshitomi (2014) により本種の無翅型としてシノニム処理された。本種は，ミゾドロムシ属のキスジミゾドロムシやアマミミゾドロムシに近縁である (Hayashi *et al.*, 2016)。
11. リュウキュウアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hayashii* M. Satô, 1999
分布：奄美・沖縄。
本種は，ミゾドロムシ属のアカモンミゾドロムシやゴトウミゾドロムシに近縁である (Hayashi *et al.*, 2016)。

ミゾドロムシ属 *Ordobrevia* Sanderson, 1953

これまでに4種1亜種が記録されている。すべての種（亜種間の比較はされていない）について幼虫も記載されている (Hayashi *et al.*, 2016)。日本

産種には少なくとも2つの系統が存在し (Hayashi *et al.*, 2013, 2016)，複数の属に区分して再配置するか，単系統群を構成する近縁属と統合するなどの処置が必要である。

12. アマミミゾドロムシ *Ordobrevia amamiensis* (Nomura, 1957)
分布：奄美・沖縄・八重山；グアム。
沖縄島のものは別亜種オキナワミゾドロムシ *O. a. okinawana* Nomura, 1959として記載されており，伊平屋島の個体もオキナワミゾドロムシとして記録されている。また，Hayashi *et al.* (2016) によって，幼虫をもとに *O. amamiensis* として久米島および西表島からも記録されているが，亜種を異にするものかどうか詳細な研究はなされていない。
13. ゴトウミゾドロムシ *Ordobrevia gotoi* Nomura, 1959
分布：北海道・本州・四国・九州・伊豆・淡路・隠岐・対馬・大隅。
14. アカモンミゾドロムシ *Ordobrevia maculata* (Nomura, 1957)
分布：本州・四国・九州・淡路・隠岐・五島・大隅。
Hayashi *et al.* (2016) が本種の分布として北海道を含めているが，誤記であることが判明したため削除する。
15. キスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (Schönfeldt, 1888)
分布：本州・四国・九州・佐渡・隠岐・大隅。
Hayashi *et al.* (2016) が本種の分布として北海道を含めているが，誤記であることが判明したため削除する。

ヨコミゾドロムシ属 *Leptelmis* Sharp, 1888

これまでに2種が記録されている。幼虫については Hayashi & Yoshitomi (2014) および Kamite *et al.* (2017) によりヨコミゾドロムシが記載されている。

16. ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp, 1888
分布：本州・四国・九州；韓国。
従来，別種と考えられていたホソヨコミゾドロムシ *L. parallela* Nomura は，Hayashi & Yoshitomi (2014) により本種の長翅型としてシノニム処理された。
17. アマミヨコミゾドロムシ *Leptelmis torikaii* Kamite, Yoshitomi & Hayashi, 2017
分布：奄美大島。
Kamite *et al.* (2017) によって遺存固有種である

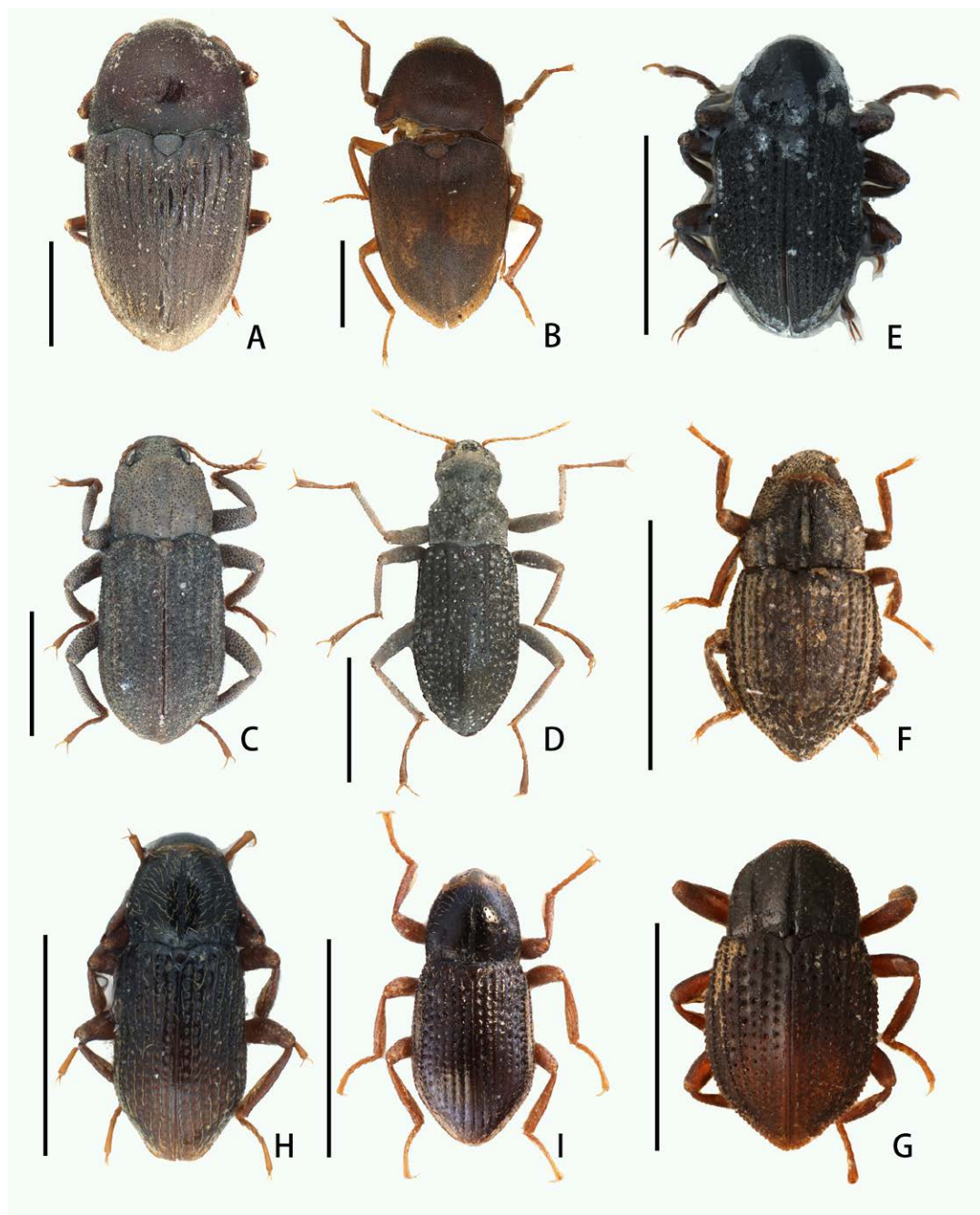


図1. 2000年以降に記載された日本産ヒメドロムシ（亜種のサトウナガアシドロムシは1998年に記載；D, Iはパラタイプ，その他は全てホロタイプ）． A, アマミハバピドロムシ；B, ヤクハバピドロムシ；C, クメジマアシナガミゾドロムシ；D, アマミヨコミゾドロムシ；E, サトウナガアシドロムシ；F, サトウカラヒメドロムシ；G, キュウシュウカラヒメドロムシ；H, クリハラヒメツヤドロムシ；I, サンインヒメツヤドロムシ． スケールバーは全て1.0 mm.

ことが推測されている。

アヤスジミゾドロムシ属 *Graphelmis* Delève, 1968
 これまでに 1 種のみが記録されている。幼虫に

については Hayashi (2013) および林 (2017) により記載されている。

18. アヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai*
 (Nomura, 1958)

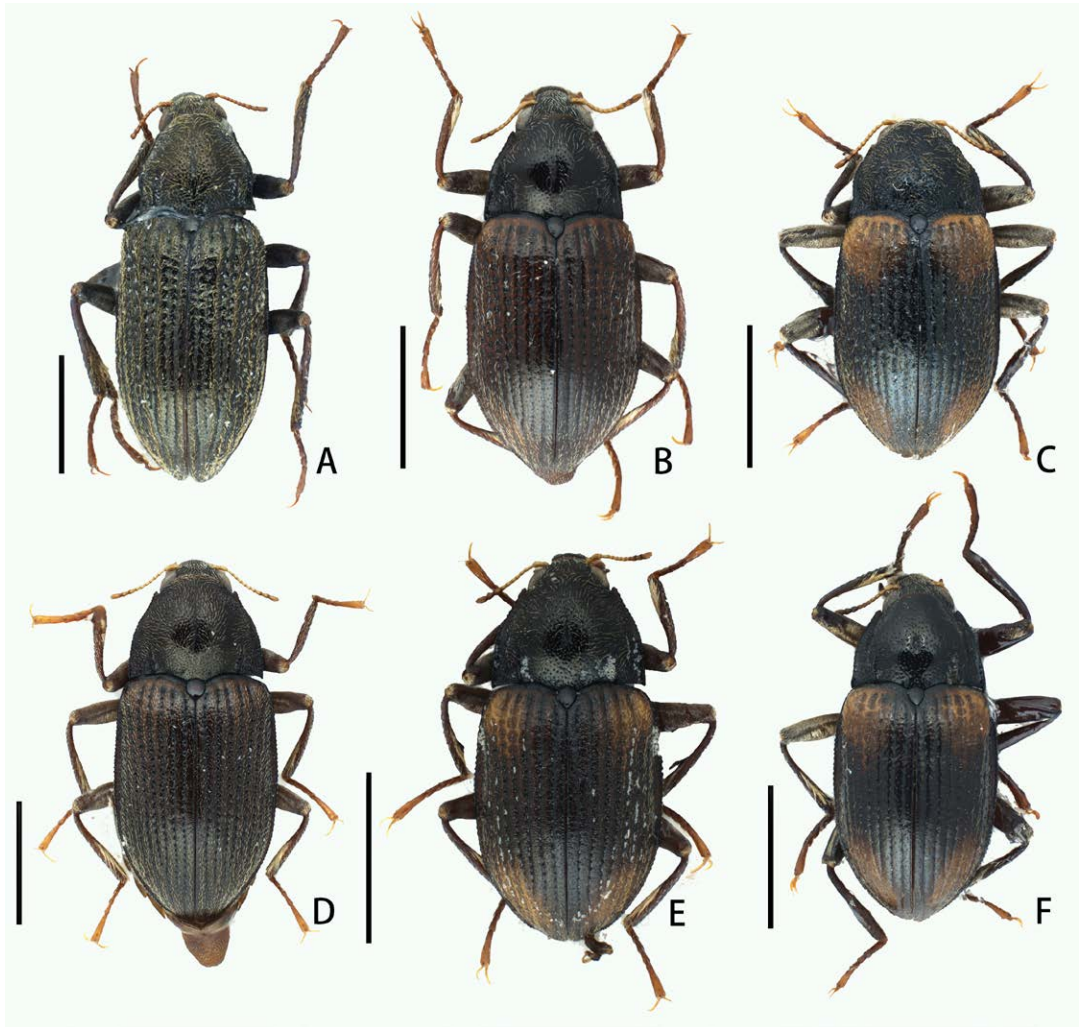


図2. 2000年以降に記載された日本産ヒメドロムシ (マルヒメドロムシ属; 全てホロタイプ). A, ツルギマルヒメドロムシ; B, ダイセンマルヒメドロムシ; C, スネゴマルヒメドロムシ; D, タテスジマルヒメドロムシ; E, ツヤケシマルヒメドロムシ; F, コマルヒメドロムシ. スケールバーは全て1.0 mm.

分布: 本州.

ノムラヒメドロムシ属 *Nomuraelmis* M. Satô, 1964

これまでに1種のみが記録されている. 幼虫については Hayashi *et al.* (2016) により記載されている.

19. ノムラヒメドロムシ *Nomuraelmis amamiensis* M. Satô, 1964

分布: 奄美・沖縄.

クロサワドロムシ属 *Neoriohelmis* Nomura, 1958

これまでに2種が記録されている. 幼虫については 林・曾田 (2015) によりクロサワドロムシが記載され, 本属が北アメリカに分布する *Narpus* 属

のシノニムである可能性が高いとされている.

20. クロサワドロムシ *Neoriohelmis kurosawai* Nomura, 1958

分布: 北海道・本州・九州.

21. シコククロサワドロムシ *Neoriohelmis kuwatai* M. Satô, 1963

分布: 四国.

前種とは背面の点刻や毛の特徴により区別されているが (佐藤, 1985), 形態差はあいまいである. クロサワドロムシは体長などに大きな個体差が見られるため, 本種も含めて今後の分類学的な再検討が必要である.

セマルヒメドロムシ属 *Orientelmis* Shepard, 1998

これまでに1種のみが記録されている。幼虫についてはまだ記載されていない。

22. セマルヒメドロムシ *Orientelmis parvula* (Nomura & Baba, 1961)
分布：本州・九州。

マルヒメドロムシ属 *Optioservus* Sanderson, 1954

これまでに11種が記録されている。マルヒメドロムシ属およびキタマルヒメドロムシ属は幼虫の中・後胸腹板の硬化片の形態により定義されているが、成虫は互いによく似ており、海外の種を含めると区別は困難である (Kamite, 2009, 2013)。上手 (2012) において、日本産種に限り、両属の区別点が示されている。ツルギマルヒメドロムシおよびヨツモンヒメドロムシを除いた9種については幼虫も記載されている (Hayashi & Sota, 2010; Kamite, 2015)。

23. スネアカヒメドロムシ *Optioservus variabilis* Nomura, 1958
分布：本州。
24. ムナミゾマルヒメドロムシ *Optioservus maculatus* Nomura, 1958
分布：本州。
25. ハガマルヒメドロムシ *Optioservus hagai* Nomura, 1958
分布：本州・九州・隠岐。
26. ツルギマルヒメドロムシ *Optioservus inahatai* Kamite, 2015
分布：四国。
27. ダイセンマルヒメドロムシ *Optioservus masakazui* Kamite, 2015
分布：本州。
28. スネグロマルヒメドロムシ *Optioservus occidentis* Kamite, 2015
分布：本州。
29. タテスジマルヒメドロムシ *Optioservus ogatai* Kamite, 2015
分布：本州・四国・九州。
30. ツヤケシマルヒメドロムシ *Optioservus sakaii* Kamite, 2015
分布：四国・九州。
31. コマルヒメドロムシ *Optioservus yoshitomii* Kamite, 2015
分布：本州。
32. ツヤヒメドロムシ *Optioservus nitidus* Nomura, 1958
分布：本州・四国・九州・佐渡・隠岐。
33. ヨツモンヒメドロムシ *Optioservus rugulosus*

Nomura, 1958

分布：九州。

ツヤヒメドロムシとヨツモンヒメドロムシは形態差が非常にあいまいで、区別が困難であることが指摘されている (吉富ほか, 1999; 緒方・中島, 2006)。今回のチェックリストでは区別して記載したが、今後の分類学的な再検討が必要である。

キタマルヒメドロムシ属 *Heterlimnius* Hinton, 1935

これまでに2種が記録されている。幼虫については Kamite (2009) により2種ともに記載されている。

34. クボタマルヒメドロムシ *Heterlimnius hasegawai* (Nomura, 1958)

分布：北海道・本州・礼文；韓国, 中国, 極東ロシア, サハリン, 千島。

従来、クボタマルヒメドロムシとされていた *Optioservus kubotai* Nomura およびその亜種の *O. k. saghalienensis* Nomura は、Kamite (2009) により本種のシノニムとして処理された。*H. hasegawai* には和名がなかったため、クボタマルヒメドロムシという和名はそのまま使用されている。

35. クロマルヒメドロムシ *Heterlimnius ater* (Nomura, 1958)

分布：本州。

スジヒメドロムシ *Optioservus hayashii* Nomura は Kamite (2009) により本種のシノニムとして処理された。

ケスジドロムシ属 *Pseudamophilus* Bollow, 1940

これまでに1種のみが記録されている。幼虫については Hayashi & Sota (2010) により記載されている。

36. ケスジドロムシ *Pseudamophilus japonicus* Nomura, 1957

分布：本州・九州。

ナガアシドロムシ属 *Grouvellinus* Champion, 1923

これまでに4種が記録されている。この他、形態的に日本産既知種に該当しない学名未決定種が知られている (緒方・中島, 2006; 三宅・堤内, 2015)。幼虫については Hayashi & Sota (2010) によりツヤナガアシドロムシが記載されている。

37. キベリナガアシドロムシ *Grouvellinus marginatus* (Kôno, 1934)

分布：本州・四国・九州・五島。

38. ツヤナガアシドロムシ *Grouvellinus nitidus* Nomura, 1963

分布：本州・四国・九州・淡路・隠岐.

39. マルナガアシドロムシ *Grouvellinus subopacus* Nomura, 1962

分布：奄美・沖縄.

40. サトウナガアシドロムシ (和名新称) *Grouvellinus babai satoi* Jeng & Yang, 1998

分布：八重山.

これまで本種に対して和名が与えられていなかったが、サトウナガアシドロムシという和名を提唱する。なお、基亜種は台湾に分布する。

カラヒメドロムシ属 *Sinonychus* Jäch & Boukal, 1995

これまでに2種が記録されている。幼虫についてはまだ記載されていない。

41. サトウカラヒメドロムシ *Sinonychus satoi* Yoshitomi & Nakajima, 2007

分布：奄美・沖縄.

これまでのところ、沖縄島では記録がない。

42. キュウシュウカラヒメドロムシ *Sinonychus tsujunensis* Yoshitomi & Nakajima, 2012

分布：九州.

ツブスジドロムシ属 *Paramacronychus* Nomura, 1958

これまでに1種のみが記録されている。幼虫については Hayashi & Sota (2010) により記載されている。

43. ツブスジドロムシ *Paramacronychus granulatus* Nomura, 1958

分布：本州・四国・九州・大隅.

ヒメツヤドロムシ属 *Zaitzeviaria* Nomura, 1959

これまでに5種が記録されている。幼虫については Hayashi & Sota (2010) によりマルヒメツヤドロムシが、Hayashi & Yoshitomi (2015) によりサンインヒメツヤドロムシが記載されている。

44. ホソヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria gotoi* (Nomura, 1959)

分布：北海道・本州・四国・九州・淡路・隠岐・五島・大隅；千島.

対馬の記録は次種の誤同定であった (吉富, 1996) .

45. クリハラヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria kuriharai* Kamite, Ogata & M. Satô, 2006

分布：対馬.

46. マルヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria ovata* (Nomura,

1959)

分布：北海道・本州・四国・九州・佐渡・五島.

隠岐の記録はサンインヒメツヤドロムシの誤同定であった (林・門脇, 2016) .

47. ヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria brevis* (Nomura, 1958)

分布：北海道・本州・四国・九州・佐渡.

48. サンインヒメツヤドロムシ *Zaitzeviaria sotai* Hayashi & Yoshitomi, 2015

分布：本州・九州・隠岐.

緒方・中島 (2006) において福岡県から記録されたマルヒメツヤドロムシ *Z. ovata* は本種であることが判明した。一方、同報文でヒメツヤドロムシ属の一種として記録された種がマルヒメツヤドロムシ *Z. ovata* に同定される。

ツヤドロムシ属 *Zaitzevia* Champion, 1923

これまでに8種が記録されている。幼虫については Hayashi & Sota (2010) によりミゾツヤドロムシが記載されている。

49. ナガツヤドロムシ *Zaitzevia elongata* Nomura, 1962

分布：奄美・沖縄.

50. ヤエヤマツヤドロムシ *Zaitzevia yaeyamana* M. Satô, 1963

分布：八重山.

51. アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana* (Kôno, 1934)

分布：本州・四国・九州・淡路・大隅.

52. ツヤドロムシ *Zaitzevia nitida* Nomura, 1963

分布：北海道・本州・四国・九州・佐渡.

北海道からの正式な記録はないようであるが、愛媛大学ミュージアムに北海道産標本が所蔵されていることを確認した。

53. ミゾツヤドロムシ *Zaitzevia rivalis* Nomura, 1963

分布：本州・四国・九州・淡路・五島.

司村 (2015) で福江島から記録され、同定が保留されたツヤドロムシ属の一種は、本種に同定される。

54. ツシマツヤドロムシ *Zaitzevia tsushimaana* Nomura, 1963

分布：対馬；韓国, 中国, 極東ロシア.

55. アカツヤドロムシ *Zaitzevia rufa* Nomura & Baba, 1961

分布：本州.

56. アリタツヤドロムシ *Zaitzevia aritai* M. Satô, 1963

分布：八重山.

ウエノツヤドロムシ属 *Urumaelmis* M. Satô, 1963

これまでに1種1亜種が記録されている。幼虫についてはまだ記載されていない。

57. ウエノツヤドロムシ *Urumaelmis uenoi* (Nomura, 1961)

分布：大隅・トカラ・奄美・沖縄。

トカラ列島口之島のものは別亜種トカラツヤドロムシ *U. u. tokarana* M. Satô, 1963として記載されているが、屋久島産は基亜種の特徴をもつことが知られており(林・藤原, 2007), 分類学的な再検討が必要と思われる。

謝辞

本報告を纏めるにあたり、記録の確認についてご協力いただいた司村宜祥氏および小川直記氏にお礼申し上げる。

引用文献

- Hayashi, M., 2009. Description of larva of *Dryopomorphus yaku* Yoshitomi et Satô with distributional and ecological notes on the Japanese members of the genus *Dryopomorphus* Hinton (Coleoptera: Elmidae). The Entomological Review of Japan, 64 (1): 41–50.
- Hayashi, M., 2013. Descriptions of larva and pupa of *Graphelmis shirahatai* (Nomura) (Coleoptera, Elmidae). Elytra, Tokyo, New Series, 3(1): 53–63.
- 林 成多, 2016. ヒメドロムシ科幼虫の微細構造の観察 1. ハバビドロムシとヒメハバビドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (19): 275–287.
- 林 成多, 2017. ヒメドロムシ科幼虫の微細構造の観察 2. アヤズミゾドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (20): 19–27.
- 林 成多・門脇久志, 2016. 隠岐諸島産水生昆虫目録 (1930–2015). ホシザキグリーン財団研究報告特別号, 17: 1–98.
- Hayashi, M., Y. Kamite, T. Kobayashi & T. Sota, 2016. Description of larvae of genera *Stenelmis*, *Ordobrevia* and *Nomuraelmis* (Coleoptera: Elmidae: Elminae) of Japan with their molecular taxonomy. Zootaxa, 4178(4): 451–480.
- 林 成多・藤原淳一, 2007. 屋久島で採集した水生甲虫. 甲虫ニュース, (159): 7–10.
- Hayashi, M., S. D. Song & T. Sota, 2013. Patterns of hind-wing degeneration in Japanese riffle beetles (Coleoptera: Elmidae). European Journal of Entomology, 110: 689–697.
- Hayashi, M. & T. Sota, 2010. Identification of elmidae larvae (Coleoptera: Elmidae) from Sanin District of Honshu, Japan, based on mitochondrial DNA sequences. Entomological Science, 13(4): 417–424.
- 林 成多・曾田貞滋, 2015. クロサワドロムシ *Neoriohelmis kurosawai* Nomura の幼虫(コウチュウ目ヒメドロムシ科). ホシザキグリーン財団研究報告, (18): 143–150.
- Hayashi, M. & H. Yoshitomi, 2014. Taxonomic treatments of two Japanese elmidae beetles, *Stenelmis vulgaris* Nomura and *Leptelmis gracilis* Sharp (Coleoptera: Elmidae), with descriptions of their larvae. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20(2): 235–244.
- Hayashi, M. & H. Yoshitomi, 2015. Endophallic structure of the genus *Zaitzeviaria* Nomura (Coleoptera, Elmidae, Elminae), with review of Japanese species. Elytra, Tokyo, New Series, 5(1): 67–96.
- Jäch, M. A., J. Kodada, M. Brojer, W. D. Shepard & F. Čiampor, 2016. Coleoptera: Elmidae and Protelmidae. World Catalogue of Insects, Vol. 14. Leiden, Brill, XXI + 318 pp.
- Kamite, Y., 2009. A revision of the genus *Heterlimnius* Hinton (Coleoptera, Elmidae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 15(1): 199–226.
- 上手雄貴, 2012. 日本産キタマルヒメドロムシ属 (和名新称) について (ヒメドロムシ科). さやばねニューシリーズ, (8): 22–26.
- Kamite, Y., 2013. Revision of the genus *Optioservus* Sanderson, part 1: Generic redescription and revision of the Nearctic species (*O. staiditidis* and *O. quadrimaculatus* species groups) (Coleoptera: Elmidae). Koleopterologische Rundschau, 83: 133–164.
- Kamite, Y., 2015. Revision of the genus *Optioservus* Sanderson, 1953, part 2: The *O. maculatus* species group (Coleoptera: Elmidae). Koleopterologische Rundschau, 85: 197–238.
- Kamite, Y., H. Yoshitomi & M. Hayashi, 2017. A remarkable new species of the genus *Leptelmis* Sharp from Amami-Ōshima, with redescription of the larva of *Leptelmis gracilis* Sharp (Coleoptera, Elmidae, Elminae). Elytra, Tokyo, New Series, 7(2): 395–408.
- 環境庁編, 1995. 日本産野生生物目録 — 本邦産野生動植物の種の現状 — (無脊椎動物編 II, 620 pp. 財団法人自然環境研究センター).
- Kodada, J., M. A. Jäch & F. Čiampor, 2016: 19.2. Elmidae Curtis, 1830, pp. 561–589. In Beutel, R.G. & R. A. B. Leschen (eds.): Handbook of Zoology, Volume IV (Part 38), Coleoptera, Beetles, Volume 1: Morphology and Systematics (Archostemata, Adephaga, Myxophaga, Polyphaga partim), 2nd ed. – Berlin – New York: Walter de Gruyter, xvii + 684 pp.
- Kundrata, R., M. A. Jäch & L. Bocak, 2017. Molecular phylogeny of the Byrrhoidea–Buprestoidea complex (Coleoptera, Elateriformia). Zoologica Scripta, 46: 150–164.
- 三宅 武・堤内雄二, 2015. 大分県のヒメドロムシ科 [予報]. 二豊のむし, (53): 12–22.
- 中島 淳, 2018. 佐渡島で採集したヒメドロムシ. さやばねニューシリーズ, (29): 57.
- 緒方 健・中島 淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227–243.
- Satô, M. 1977. Elminthidae. Check-list of Coleoptera of Japan, (9): 1–6. The Coleopterists' Association of Japan.
- 佐藤正孝, 1985. ヒメドロムシ科. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (編), 原色日本甲虫図鑑 II, pp. 434–440. 保育社.
- 佐藤正孝・吉富博之, 2005. コウチュウ目 (鞘翅目) Coleoptera. 川合嶺次・谷田一三 (編), 日本産水生昆虫—科・属・種への検索, pp. 591–658. 東海大学出版会.
- 司村宜祥, 2015. 五島列島福江島の河川で採集した水生昆虫の記録. 兵庫陸生生物, 66: 43–63.
- 富永 修, 2010. 淡路島のヒメドロムシ. ねじればね, (128): 2–4.
- 吉富博之, 1996. 対馬のドロムシ類. 甲虫ニュース, (115): 9.
- 吉富博之, 2014. 伊豆諸島の水生甲虫類. さやばねニューシリーズ, (16): 26–31.
- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95–116.
- Yoshitomi, H. & M. Satô, 2005. A revision of the Japanese species of the genus *Dryopomorphus* (Coleoptera, Elmidae). Elytra, Tokyo, 33(2): 455–473.

(2018年2月22日受領, 2018年3月2日受理)